

令和6年度 第2回四国森林管理局国有林材供給調整検討委員会【議事概要】

1 日時及び場所

令和6年9月24日（火）10時00分～11時30分

四国森林管理局 局議室（Web）

2 議題

- （1）管内における木材需給、価格動向等について
- （2）各分野における現状や今後の見通しについて
- （3）木材需給動向を踏まえた国有林材の供給調整について
- （4）意見交換
- （5）その他

3 議事概要

【委員会の検討結果】

国産材製品については、依然として建築資材の高騰で建築費の上昇で、住宅着工戸数の減少が続く中、構造材を中心に動きが停滞しており、製材工場では出荷量の減少、在庫量の増加、価格の値下げなど厳しさが続いている。

このような中、丸太の需給状況については、スギ材は、製品の荷動きを反映し引き合いが弱く価格も低迷が続き、ヒノキ材についても、構造用原木を中心に引き合いが弱く価格は下落傾向であったが、天候や虫害等の時期的な要因もあり出材量が減少したため、価格は総じて横ばいで推移している。

一方で、木材生産事業が今後最盛時期を迎える中、出材量が増加することが考えられるが、供給過多となれば需給バランスが大きく崩れることも危惧される状況にある。

以上のことから、需給状況の更なる悪化を回避・抑制するための措置として、今年度予定している10月以降の立木販売物件の公告時期について後ろ倒しを行うことが望ましい。

今後においても、民有林材の出材状況や製材品の需要動向を見極めつつ、必要に応じ地域の実情に即した供給調整を検討していくこととする。

【主な意見等】

○ 素材生産業

- ・ 木造住宅着工数が対前年比での低下が続いているが、4～6月の高知県の原木生産量は若干の増加が見られる。四国内の原木出荷量は低調。台風等の大雨による作業道等の被災などから、一時的な原木生産量の減少が考えられる。
- ・ 製品の動きが鈍いために材価の低迷は続いているが、生産活動に変化はない。4m材を主体に出材されている状況。先行きは現状が続くと思われる。

- ・ 局地的な豪雨等の影響により作業の中断なども見られたが、限定的であり生産活動は概ね順調に推移している。今後は台風発生が多くなることから、生産量などに影響するのでは。

○ 原木市場・共販所

- ・ 入荷量は例年に比べ少ない。原木の不足感から、スギ・ヒノキ共に引き合いがある。今後入荷量は増加してくると思われる。価格は原木不足から、スギは横ばい、ヒノキは一部若干の値上がり傾向。新築住宅の着工件数が少なく、単価の値上がりの期待感は薄い。原木出荷量が増加した時の単価が心配。
- ・ 入荷量は少ないが買い気も少なく、製材所の必要なものしか買わないなど慎重であり、この状態が続くと思われる。スギ・ヒノキ共に価格は弱い、大きく下がっていない。バイオマスや輸出向けの買いなどで一定の下支えがある。価格は現状のままで推移すると思われるが、為替相場が少し円高に動いたことで、輸入輸出に影響が出るかもしれない。
- ・ 入荷は、6～8月（前年比）スギ・ヒノキ共に減少。スギの引き合いは低調。ヒノキは8月に入り少し引き合いが出てきた。生産量は現状で推移するものと思われる。価格はスギ・ヒノキともに5月から横ばいで推移し、ヒノキの柱口が若干回復傾向。今後の価格は横ばいで推移する見通し。

○ 製材工場等

- ・ 高知県内の住宅着工数が激減。特に持ち家は前年同月比60%でかなり弱い。木材価格は変わらないが、出荷量は非常に弱い。主な原因は、木材以外での住宅価格の高騰が続き、所得との乖離が大きい。住宅ローンの金利上昇に不安感もあり、建売を含めて販売が停滞する悪循環に陥っている。
- ・ 7～8月は、製材機械の更新のため減産。原木出材量は例年並みだが、ヒノキの出材量が減少している。9月から本格稼働だが、ヒノキの出材量が少ないので不安感。着工数減少なりの製品出荷量で価格は底値感が強い。羽柄材中心に販売。3m角材は通常出荷で4m角材は弱め。着工数が減少し、製品出荷が減少するのは仕方がないが、JAS製品の問い合わせが増加傾向にあり需要拡大を目指していきたい。
- ・ 暑さ、雨天、伐採時期などの影響で出材が非常に少ない。一部不足しているものは高値となっている。9月の出材は少なそうだが、それ以降は不透明。住宅着工減により、構造材が特に悪い。在庫が多く安いものが出始め、先行き不透明。川中の製材が苦しく淘汰の時期に入った。